

⑪「常識」

自分が常識だと思っていたことが、他人や集団にとっては違ったことがあるか、体験を書いて自分の意見を書く

「一段落目」自分の体験を示す。

(例)

小学校の時、僕は転校しました。そして、学校や地域によって「普通」というのは結構変わるもんなんだということを知りました。それは、遊びのルールであったり、学校生活でのルールであったり、いろいろありました。

「二段落目」具体的なエピソード①

(例)

一番最初に衝撃を受けたのは、ジャンケンの際にかけ合う言葉でした。引越す前に僕がいた地域では、ジャンケンの時には必ず、「最初はグー！」と言っていました。転校した先でクラスメートとジャンケンをするようになったら、「出さなきゃ負けよジャンケンポイ」と叫ばれました。出さないと負けになってしまうというそのルールに直面して、これでは参加しない権利が侵害されてしまうのではないかと、少なからずストレスを感じ、ジャンケンをする際には思わず緊張してしまう日々が続きました。また、今まで「最初はグー」と言っていた人間が、「出さなきゃ負けよ」と自ら言い出すのはかなり気恥ずかしいものがあり、積極的にジャンケンを呼びかけることができなくなっていました。

「三段落目」具体的なエピソード②

(例)

普段の遊びについても、それ以前の「普通」とはかなり異なっていました。前の学校では、球技といえば野球かドッチボールで、休み時間はドッチボール、放課後は空き地で野球というのが僕の日常でした。しかし、転校した先では、休み時間も放課後も、みんなサッカーでした。少年野球に入っていた僕は、転校しても野球は続けようと思っていたのに、引越した先には野球チームなどなく、サッカーチームしかなかったのです。小学生にとって、活躍できるスポーツの場を失うというのは、アイデンティティーの喪失といってよく、しばらくの間は暗い毎日を過ごすことになりました。

「四段落目」結論・まとめ(自分の意見)

(例)

しかし、いつまでもストレスを感じ、暗く打ちひしがれているわけにもいきません。「出さなきゃ負け」なら出さなきゃ負け。野球よりサッカーの方がかっこいいというならサッカーをやるまでです。「郷に入ったら郷に従え」といいますが、異なるルールの下にある新しい環境においては、そのルールに従わないと、非常に生活がしづらくなります。転校して二か月もすると、僕も新しい「普通」に慣れ、開き直って「出さなきゃ負けだぞジャンケンポイ！」と叫ぶことができるようになりました。ルールが変われば正しさは変わるものです。自分の常識に縛られることなく、その場その場のルールに順応することが生きる力だと僕は思います。